

道徳科学習指導案

令和5年12月8日（金）第5校時 3年〇組教室

主人公の心情や考えを問う「分析的発問」を行った上で、中心発問で主人公への自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行ったことは、自分事としての意識を高めながら価値理解を深め、多面的・多角的な思考を促すために有効であったか。

I 主題名 「自分とは異なる意見や考えを大切にするには」〔B 相互理解、寛容〕

資料名 「しょうたくんとあやちゃん どうしたらいいかな」 （出典：内閣府男女共同参画局
男女共同参画推進連携会議 お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター）

II 主題設定の理由

1 ねらいとする価値

本教材は、学習指導要領第3学年及び第4学年「内容項目B 主として人との関わりに関すること」の「相互理解、寛容」における「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」に基づいている。

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。また、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場を広い心で受け止めて相手への理解を深めることは、自らを高めていくことにもつながる。なぜなら、異なった意見や立場をもつ者同士が互いに尊重し合うことは、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことだからである。このように、自分とは異なる意見や立場を広い心で受け止めて相手への理解を深めることは、今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止につながるるとともに、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも大切である。以上のことから、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てたい。

2 児童の実態

(削除)

3 資料について

本教材は、小学校1年生で仲の良い「しょうたくん」と「あやちゃん」が主人公の話である。ある日、お互いに大切にしている物を見せ合った際に、あやちゃんが持ってきた「ラジコン」に対して、しょうたくんは「男の子みたいで変だ」とあやちゃんをからかい、怒らせてしまった。その後、しょうたくんは母親と話し、自分とは異なる考えを否定して、自分が抱いているイメージを相手に押しつけることはよくないことだと気づき、あやちゃんに対して、謝罪をしようとする物語である。

この教材を通して、自分が抱いているイメージに固執するのではなく、自分とは異なる意見や考えを否定せず、まずは受け入れ、その意見や考えを大切にしようとする態度の育成を目指す。

4 人権教育との関わり

本校の人権教育目標は、「人権尊重の精神を基盤におき、生命や人権を尊重し、他人を思いやる豊かな人間性を備え、公正・公平な判断力にしたがって行動できる児童の育成を図る」である。男女の偏見や相互理解、自分とは異なる意見や考え方を尊重することについて考える活動を通して、男女の壁にとらわれない他人を思いやる人間性を育てていく。また、3年生の人権教育目標は、「一人一人の力を出し合い、人の気持ちを考えて、友達と仲良く助け合える子の育成を図る」とされ、本時の授業を通して、相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にしながら、友達と助け合える学級をつくっていく。

Ⅲ 本時の学習

- 1 **ねらい** 性別によるイメージや偏見にとらわれて発言してしまったしょうた（主人公）の思いを考える活動を通して、自分とは異なる考え方を否定せず、受け入れ、大切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- 2 **準備** 教師：範読教材、ワークシート、電子黒板、場面絵
- 3 **展開** 【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 主な発問（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し） 予想される児童の反応「S」 </div>	○指導上の留意点及び支援
1 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。 （5分） S：男の子は○○、女の子は○○という決まったイメージをもっている人が多いし、自分ももっている。 S：相手の考えを認めずに、相手のことを傷つけてしまったことがあるかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <めあて> 相手の考えを大切にするには、どうすればよいだろうか？ </div>	○事前アンケートの結果を提示したり、性別の違いから想起するイメージを自覚させたりすることで、男女の偏見や自分とは異なる意見や考えを認めずに傷つけていることについて再認識させ、自分事として問題意識を高められるようにする。

<p>2 教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分)</p> <p><しょうたくんの発言></p> <p>「あやちゃんは女の子なのに車が好きななんておかしいよ。へんなの。」「青は男の色だよ。それに車を作るのは、男の子の仕事でしょ。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○「どうして、しょうたくんはこんなことを言ってしまったのだろうか。」</p> </div> <p>S：あやちゃんの好きなものをばかにしているから言うてはいけないことだけど、相手の気持ちを考えられていなかったからだ。</p> <p>S：自分の勝手なイメージから言ってしまった。相手を傷つけてしまうとは思っていなかった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎「みなさんがしょうたくんの立場になったとき、あやちゃんには、なんて声をかけますか。」</p> </div> <p>S：車かっこいいよね。どんな車が好きなの。</p>	<p>○児童が教材文の内容を捉えやすいように、範読前に登場人物やおおまかな内容を確認する。 【★提示】</p> <p>○あやちゃん的心情を考えさせることを通して、しょうたくんの発言は、自分とは異なる意見を否定し、相手の意見や思いを大切にしていないことを確認する。</p> <p>○しょうたくん的心情や考えを問う「分析的発問」を行う。これにより、誰でも自分が抱いているイメージを優先したり、その時の感情の変化に流されて発言したりする可能性があることに気付かせながら人間理解を深め、主人公の言動を多面的にとらえることができるようにする。</p>
---	---

<p>S : 僕も車が好きなんだ。同じだね。</p> <p>S : どんなものがあるか教えて？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇「皆さん、男は〇〇、女は〇〇というイメージをもってましたね。本当にそのように言うことができますか、誰にでもそのように言うことができますか。」</p> </div> <p>S : 言える。</p> <p>S : 言えないかもしれない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇「どうして、そう思ったのですか。その理由はなんでしょうか。」</p> </div> <p>S : 仲が良いなら、つい言ってしまうかも。</p> <p>S : 相手が傷ついてしまうから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇「どうすれば言えるようになるのかな。」</p> </div> <p>S : 仲良くても、相手の気持ちをしっかり考える。</p> <p>S : 相手の考えを否定してはいけない。</p>	<p>○自分事として自覚を高めながら価値理解を深め、自分とは異なる相手の意見や考えを大切にするためにできることを多角的に捉えられるように、しょうたくんへの自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする「投影的な発問」を行う。</p> <p>○互いの考え方を確認しながら、意見交流を行い、考え方を深められるように、クラウド上の共有スライドを活用する。</p> <p style="text-align: center;">【★共有・データの保存・一覧表示】</p> <p>○色々な意見に触れられるように、意見を持った児童から、児童間で交流をさせる。</p> <p>○親しい関係性にある相手に対しての日頃の言動を振り返らせる補助発問を行うことにより、誰にでも同様な言動を行うことができるかを考えさせ、児童の思考を活性化させていく深く考えられるようにする。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○「相手の考えを大切にするには、どのようにすればいいのだろうか。」</p> </div> <p>S : 相手の考えをすぐにダメだと思わない。</p> <p>S : 相手の考えについて、理由を聞く。</p> <p>S : 相手の気持ちを考えながら話をする。</p>	<p>○児童が導入時の自分と比較しながら考えられるように、導入時に使った資料をもう一度提示し、クラス全体で共有する。</p> <p>○本時のめあてについて、どのようなことを改めて感じたかを考えられるように、本時の展開を振り返る。</p>

<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分)</p>	<p>○よりよい自己の生き方への思いや願いを明確にするため、今までの自分、これからの考えや行動について気付いたことを記述させる。</p>
<p><振り返り></p> <p>S：今までは、自分の勝手なイメージで相手の好きなものをからかってしまう時があったと思いました。これからは、相手の考えを大切にするために、自分のイメージと違っていても、相手の考えを否定することはせずに、相手の気持ちや理由をしっかり聞いて話をするようにしたい。</p>	

<p>◆評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや発言から、「自分と異なる意見を大切にすることについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。 ・ワークシートや発言から、「相手の意見や考えを大切にするためにできることについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。
--

4 板書計画

